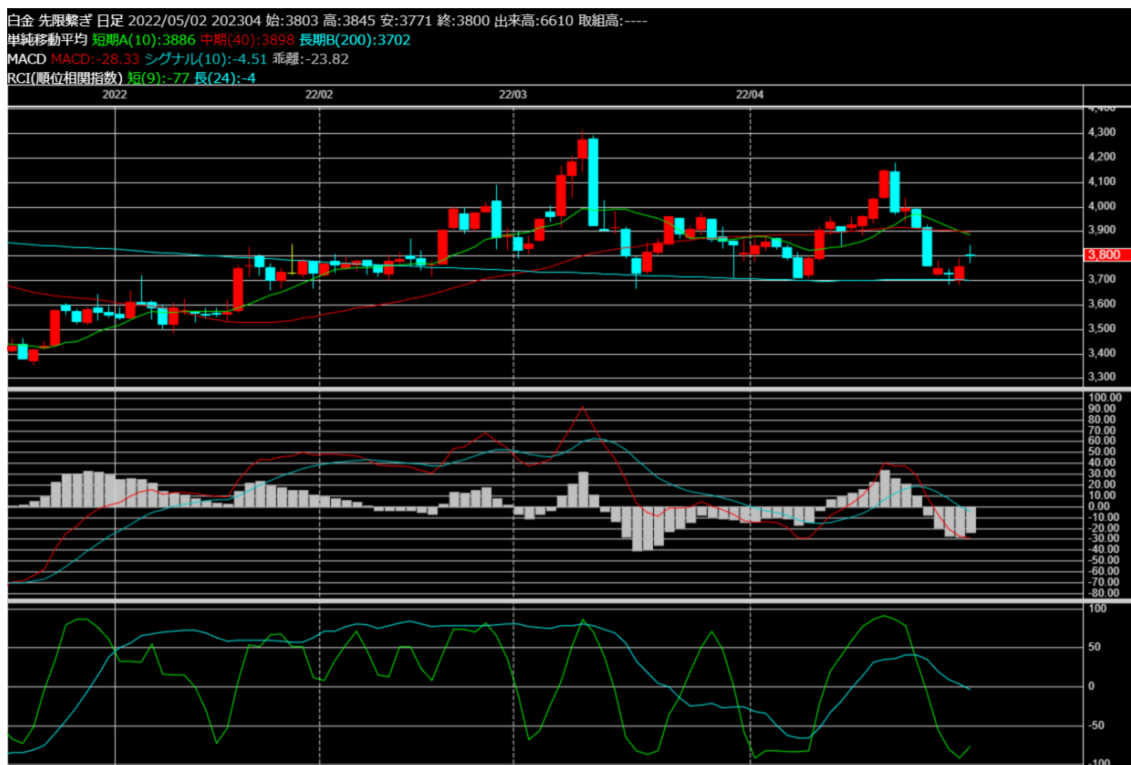


<白金標準先物、16日にJM社PGM市場レポート発表・・・>



(出所：オアシス)

中国上海市のロックダウンが4週目に入り、北京市でも4日間の大規模検査が終わり、今週には部分的なロックダウンが開始される可能性が高まりを見せている。また南アフリカでは新型コロナ・ウイルスの変異株の発見で新たな感染リスクが高まりを見せている。そのため中国のロックダウンや変異株の発見などが、サプライチェーンの混乱に結び付き、半導体などの部品供給の懸念も存在している。また週末はダウ平均が1000ドルを超える下落を示すなど、企業決算が予想外に低下している。

しかし対ロシア経済制裁処置によるロシア産のPGMの供給は低下する状況下であり、南アフリカ産のPGMにはプレミアムが上乗せされる状況もあり、そのためロシア軍がウクライナ侵攻を行なった2月24日以降は、NY白金で900ドルを下回ると下げ止まる動きを強めており、白金標準先物も3700円以下は買い場を示す反転を行なっている。

特に5月は南アフリカでプラチナ鉱山での賃金交渉が活発化する時間帯でもあり、また5月16日はJM社のプラチナ2022のPGM市場レポートの発表も控えており、需給要因の見直しから高値追いへ変化する可能性は高まると予想される。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げ渋り、シグナルは下げている。RCIは短期が反転し、長期は切り下げている。そのためオシレーターは弱気を示唆しているが、日足は200日移動平均線の下値抵抗を示すなどオシレーターの反転を待つ時間帯に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,084,000 円(2022 年 5 月 2 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 5 月 2 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>